

## 日本語学習を通して 日本人に伝えたいこと

ボランティア日本語教室で日本語を学び、そこに集う人々と会話を楽しむ学習者に教室を出て、日常の生活や旅先で感じたことを書いてもらいました。

### 日本に住んで感じること …………… 李 玲娣 / 中国・女性

15年前、日本人妻として日本に来ました。初めての外国の生活ですが、不安とともに物事の新鮮さや便利さを感じて生活しています。

最初は交通網が大変便利と感じていましたが、不便さも感じました。例えば電車を乗り換えるとき、多くの駅は駅員がホームにいないで、日本人は普通だと思っただけですが、外国人としては不便な事が多いです。私自身も案内の看板がないところでは、どの電車に乗っていいか、ずいぶん悩んだ事があります。案内の看板はあるけれど、わたしは行きたい所の駅の名前が書いていないので、どの電車に乗るかどうか迷って電車を見送ったことも何回もありました。

子どもが小さいとき、家族でディズニーシーへ行って、帰るときバスに乗ろうとしたら定員に達していたので、私たち家族は次のバスに乗ることをすすめられました。その時他の路線のバスで帰ったほうがそのまま待つより速いのが分かりませんでした。結局寒い中、私たち家族は40分以上バスを待つことになりました。

つまり便利な日本でも、少し不便なところもありますが、それでも日本が大好きです。

日本に住んでいる私達はもっと日本の良さを知ってもらって沢山の中国人が日本に来て、日本の文化や日本人の暖かさを体験してもらえれば、必ず友好関係が進むと私は信じています。

### 四季のスバラシさ …………… Aさん / タイ・女性

10年前に日本人と結婚して日本に来ました。初めは寒い冬や、むし暑い夏におどろきました。なぜならば、タイには四季がないからです。一年中暑い夏で、あるのは雨季(6月から10月)と乾季(11月から2月)だけです。

でも最近、四季があるということはとてもステキだと分かってきました。お店でマツタケを見ると、秋になったのかと思ったり、春が近くなると、桜の花が見たくなったりします。

日本語には春一番など、季節にかんする言葉が沢山あるので、もっと勉強してくわしくなりたいと思います。そしてそのスバラシさを、タイの友達に伝えたいです。

日本人は生まれたときから四季があるので、そのスバラシさが分からないかも知れません。だから四季のない国に生まれた私が日本語を勉強して、四季のスバラシさを日本の人たちに伝えることができたら良いと思います。

### 鑑真の渡日に感想したこと …………… 梁 大鵬 / 中国・男性

今年9月の三連休に、私は家族旅行で、憧れの奈良と京都へ行き、いろいろな名所を見物しました。その中で、奈良の唐招提寺は、中国の唐時代に来日した鑑真大和上のために建てられた1200年以上の歴史を持つお寺で、とても深い印象を残っています。

私は昔歴史の教科書で鑑真の渡日という史実を概ねに知っていましたが、わりあいに詳しいことが、今回の旅行をきっかけに調べ、次第に分かりました。

鑑真は、遣唐使から日本天皇の「伝戒の師」としての招請を受けて、大変な困難に遭った航海で5回の失敗も受け止め、失明に遭遇したにもかかわらず、

ようやく6回目に成功して来日しました。

ということで、鑑真が、仏法のために生命を惜しまない高徳は言うまでもなく、命懸けの遣唐使の後ろに天皇をはじめ日本人が先進のことを学ぶ強い向上心に感動されたことは想像し難くないと思います。

こうした向上心が、ずっと伝わってきて、千年経っても消えず、近代になってもさらに燃えています。明治時代から迅速的に先進国の行列に飛び込んで、敗戦の後速く経済の大国に成長したということは、明らかな証拠だと言えるでしょう。

# 外国につながる 子どもを取り巻く環境

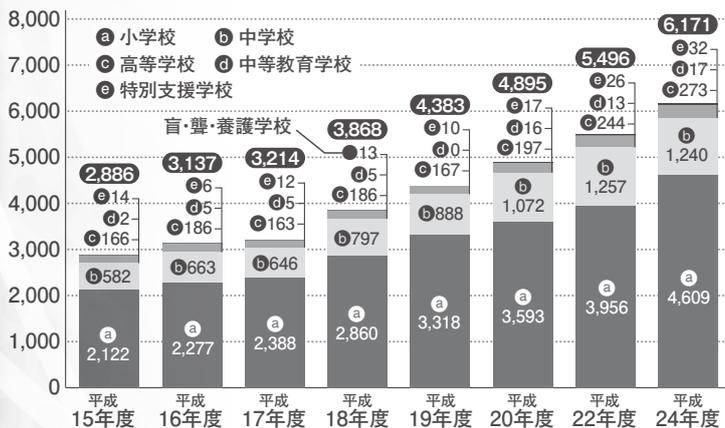
NPO 法人 多文化子ども自立学習支援センター 代表 中山 眞理子

## 「日本語教育」が正規科目に

今年1月14日、学校教育法施行規則の一部を改正する省令が通知(以下、「通知」)され、4月1日に日本語が学校教育の中で「特別の教育課程」(正規科目)に位置付けられました。

今までは増え続ける「日本語指導が必要な子どもたち(以下、「当該生」)への対応は一定の基準を満たした学校で東京都教育委員会の枠組みで加配教員が指導する「日本語学級」、各区市の教育委員会が独自に運営する「国際学級」等で指導が受けられましたが、それ以外では、非正規科目であったため、課外活動などの位置付けで放課後に支援したり、各地域の自治体、教育委員会、国際交流協会、NPO等の個別のシステムやカリキュラムでの支援で、全く十分とは言えませんでした。今回の「正規科目」への移行はまさに画期的なものです。背景には増え続ける「就学の義務」のない外国籍児童生徒の増加と定住化があり、もう一つ、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒の数が目覚ましく増加していることもあります。

日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数



出典:文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況等に関する調査」

## 日本語指導の目指すもの

通知では日本語指導の目的は「学校生活を送るために必要な日本語を身に付けるためだけでなく、児童生徒が日本語で学習に取り組むことができることを目的とする」と従来の「日常会話レベルのコミュニケーション能力を身に付ける」より踏

み込んで規定しています。対象とする外国人児童生徒の実態がいずれ帰国すると考えられていた少数の存在から、定住し日本社会の未来の担い手としての存在に変容してきたことが明確になった時、問題解決の対策が必要となり、省令改正の要因となったのではないのでしょうか。

また、外国文化・言語・教育の背景を持つ日本国籍児童生徒の増加も顕著です。ここで問題になる日本国籍の当該生は一般に「帰国子女」と呼ばれる、日本人の両親を持つ短期間海外で過ごし帰国する子どもとは異なった存在です。一般的な帰国子女に対しては十分とは言えないまでも、ある程度の対応の蓄積があります。ここでは、国際結婚そのものに起因した文化・言語が日本語での学習に困難さを与える場合や配偶者のいわゆる「連れ子」を養子縁組して帰国させた場合の当該生です。さらに、婚姻または認知による日本国籍の取得者で、実質は日本の文化に全く触れていない場合も書類上、帰国生となります。また、日本人同士の結婚でも、生まれてから一貫して海外に居住し、言語も発想も文化背景も「日本」を介していない場合も多くなっています。

保護者が就学させる義務を負う日本国籍生に日本語で授業に参加させ、成果を挙げさせることを期するなら、それ相応の対応が必要で、当然、集中的に日本語を学ぶ時間が必要となります。今回の通知で初めて具体的な日本語指導時間を明示し、「年間10時間～280時間、それ以上も可」と記されますが、年間10時間というのは、来日・帰国後数年経てまだ必要な場合、例えば試験の補習等をイメージしているそうです。「特別の教育課程」となり、一般的に2年までとする日本語指導に年限なく、必要に対応できるのも大きな変化です。

指導は教員免許を有する教員が「主たる指導者」で、補助者が日本語指導・教科指導等を行ったり、母語が分かる者が指導補助者として支援を行うとなります。ただ、主たる指導者は現在、日本語教育の有資格者でなく一般教員が当該生に指導するため、十分な研修も受けず、経験もない担当教員は悪戦苦闘せねばなりません。こうした困難な状況下で「補助者」という立場を是認し、既に日本語支援をしている地域のボランティア、支援活動グループ・団体の支援を活用しようという意図が感じられます。一方で、指導・支援を支える者として、学校で指導に当る教員に対し研修会を充実させると共に、学校関係者及び地域の支援者に対しても日本語指導

に関する研修会を実施し、指導に関する意識や指導力の向上を期すように要請しています。

### 外国の子どもに「教育を受ける権利」はないの？

日本国憲法には「国民が、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負う」旨が規定されています。当該生には当然、所謂、「帰国子女」や日本国籍をもつ重国籍の子どもたちが含まれますが、それ以外の児童生徒は、保護者に就学させる義務はないというのです。しかし、一方、日本は国際人権A規約(経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約)や児童(子ども)の権利条約を批准しており、子どもが教育を受ける権利を保障しています。

### 「学年を下げて在籍させる」ことが明文化

今回の通知の留意事項として、「日本語指導には、当該児童生徒の日本語の能力を高める指導のみならず、当該児童生徒の日本語の能力に応じて行う各教科等の指導も含むものであること。(中略)当該児童生徒の受け入れに当たって在籍させる学年については、必ずしもその年齢にとらわれることなく、必要に応じて相当の下学年に在籍させることについても配慮すること」と記されています。

世界の教育開始年齢・各教科のカリキュラムも一様でなく、フィリピンは6月、中国は9月、日本は4月と、新学年が始まる時期も異なります。その狭間で、小学校を卒業していない当該生が来日、中学1年相当の学齢と判断され中学校に入学・編入させられるケースも報告されます。しかし、今回の通知で必要に応じて下学年に在籍させる配慮が明文化され、単に年齢で区切らず、本来の学習能力に応じた指導が受けられる可能性が出てきました。

### 都立高校入試改革により合格が更に困難に

下記のグラフは中学既卒の外国にルーツを持つ子どもの高校進学を支援する「たぶんかフリースクール」の子どもたちがどのような形で受験したかの表です。在京枠というのは、当該生を対象とした「在京外国人特別枠」入試で、条件の差はあれ、多かれ少なかれ各都道府県が採用している制度です。近隣県の数字と比べ、遥かに多くの当該生がいる(推定

800人)首都東京都の「外国人特別枠」はわずか3校、生徒のほとんどが3科目(国語・数学・英語)受験可能な学校を受験します。既卒と未卒の差はあっても、日本語がまだ十分でなくても、潜在能力である程度点が取れる英・数で国語の得点の低さをカバーするという考えで、3科目受験に備えるのです。5教科受験ではそれに加え、理・社で更に負の要素が加わり、可能性が更に低くなるからです。

ところが、最近発表された都立高校入試改革で、2016年度から全日制は基本的に5教科受験になると発表されました。「外国人特別枠」の3校4学科の非常に狭き門に加え、5教科よりはましな3教科受験もできなくなると、当該生はどうやって、高校進学を果たすのでしょうか。当該生にも、多くの選択肢が与えられ、本来の潜在的学力に合致する高校に進学できるよう環境整備が求められるところです。

今回の省令改正により期待できる変化は日本語支援に携わる者にとって非常に喜ばしいことですが、各地方自治体がそれを早急に教育政策に生かし当該生が恩恵をできるだけ早く享受できるようにと願って止みません。来日間もない子どもたちには初期指導として集中して200時間ほどの日本語指導を行うことで、少しずつ授業に参加できるようになると言われますが、それから日本語指導と教科学習を並行して行うことが必要です。

さて、皆さんの自治体での支援状況はどうでしょうか。例外は多少あるかもしれませんが、十分とは言えないのではないのでしょうか。その足りない分を皆さんのボランティア活動が補っているというのが、現状ではないでしょうか。足りないまでも支援し、できるだけ多くの時間を確保する必要があります。そこで、より効果的な支援を行うためには、学校、教育委員会との連携を大切にしていくことが必要不可欠となるのではないのでしょうか。

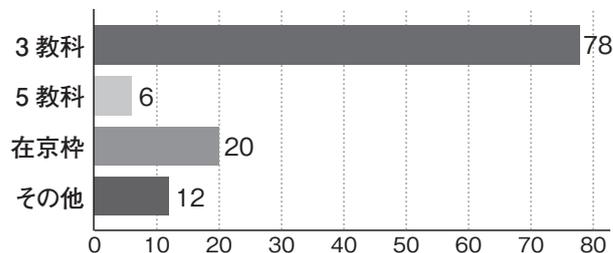
子どもたちが日本語で潜在能力が十分発揮できるようにするには、きちんとした継続的な指導があっても5～7年かかると言われています。日本語を学びに皆さんのところに通ってくる子どもたちのほとんどが、将来にわたって日本語を使っている生活が中心となるであろうと予想されます。社会で自立する力となる日本語をきちんと獲得することが、彼らが夢を描き自分の力で未来を切り開くカギとなるでしょう。そのための支援をボランティアとしての皆さんの活動に期待しています。

2014年度「外国人特別枠」による入学状況

	特別枠のある 高校・学科	定員	応募	合格
東京都	4	55	151	57
埼玉県	6	60	35	15
千葉県	14	40	39	25
神奈川県	11	109	115	92

調査：東京の日本語教育、日本語学級を考える会

2011年～2013年のたぶんかフリースクール生の受験方法別人数(合格時)



出典：多文化共生センター東京 ニュースレター「みんぐる」

※「たぶんかフリースクール」とは、認定NPO法人多文化共生センター東京が、外国にルーツを持つ子どもたちを対象に、日本語や教科を勉強する学びの場です。



# 集団の力、地域の色

日本語教師 金子 広幸

たまに日本の大都市〇阪に出かける私。燃えるような色合いと、ありえない組み合わせのファッション、刺激的な周波数の日本語、〇阪はいつも衝撃的なイメージで五感を震わせてくれます。

天下の〇阪のど真ん中を走る地下鉄御〇筋線の電車の中でのこと。…夕方の通勤時間、かなり電車は混んでいましたが、よく見ると、品のいいスーツをパリッと着こなした部長クラスの紳士が、袋を鞆の中に忍ばせて、「おせんべい」をかじりながら、缶チューハイをぐびぐび。「…お！ さすがKAN西！」

朝のK阪電車の中では、私の目の前で飛び切りの大口を開けて、朝ごはんのサンドイッチを食べている女性。目の前であんぐりとやられたので、思わず見つめ返したら、女性もじっと私を見ていました。「電車での食事、ここでは不思議なことではないんや～」と驚いてしまいました。

KAN東でも「電車でお食事族」はいるのですが、適当に遠慮しているように見えます。

デパートのお菓子売り場では、これまた刺激的な周波数で「あのな～、今度の休みにな～、親戚のおばちゃんのお祝いの古希のお祝いがあるんやけどね…」と悠々と語り出す老婦人。その後ろには長蛇の列。「T京やったら『これ、16個。箱に入れてね』で済むのにな～」。

T京は、さすがは首都、スマートや！ すれ違う時もサッと身かわしてくるし、後ろのことを気にしながら歩いたり並んだりしてくれる人も多いですよね。どこでもKAN西よりははるかに静か。

…でも…人ごみの中でシーンと静まり返っているのはいいのですが、満員電車の席に座っている人の全員が「スマホ」。小学生がドアに挟まれようが、おばあさんが転びそうになるうが、お構いなし。ゲームやメールに夢中で、たまにニヤニヤしている。怖い！

T京は人が多いから、いちいち他人のことを気にしていたらやっつけられないんですね。

〇阪の空堀商店街で見ず知らずの私に声をかけてくださった葉茶屋さんのお主人宮下さんは、煎茶を世界に広めようとしているのですが、この4年間〇阪に行くたびにお邪魔して、お話をうかがっています。いつでも丁寧にお茶の話をしてくださるのです。…T京にはこんなに人を気遣える人はいないな～、と毎回思います。

T湾のTペイ北市に30年近く前に住んでいた私。ついこないだ訪ねた時も、バスに乗り遅れてはいけなと、30年前の習慣でバスを追いかけ走り出しました。でも、はっと気づくと、今はそんなことをしている人はいないのです。…横断歩道を渡る時、つい歩道から飛び出して立っていたら、若いT湾人の学生さんに「おじさん、危ないですよ」と言われてし

まいました。

外からその社会を見ると、「え??」となるものも、旅行者も居住者も、やがては、それをその町のやり方だと感じて、同じ行動を取ろうとするのでしょ。これは同族であろうとする人類の知恵なのでしょうか。

この辺、外国人の学生さんたちも、よく見えています。エスカレーターのどちら側に立つかというような、日本の東西の差はもちろん、「日本人が申し訳なさそうに何かを言う時は、眉毛の間の距離が近くなります」と言っていた学生さんもいます。

地域の日本語支援で求められているのは、実は「地域の色」が上手に紹介できることだと私は考えます。この「地域の色」は、日本語学校や大学の日本語クラスではあまり扱えませんが、

〇阪で上手な買い物をしたいなら、「あのな～、うちのおばちゃんがな～…」から始めないとならないのかもしれないから。

初級日本語の教科書『みんなの本●●』、確かにこの島で行われている言葉の「幹」を扱っているのかもしれませんが、「枝葉」の部分は〇阪も、T京も、N古屋も、K都も、N覇も、千●●も、神●●川も…それぞれにいるいろんな「色」を持っているのですから、「みんな違って、みんないい」のだと思います。

地域支援の皆さん、学生さんの日本語に余裕が出てきたら、こんな「地域の色」を紹介してあげたいですね。



# ベトナムのおよび ベトナムでの日本語教育について

安川 豊

私はプラスチック部品の工場を立ち上げるために2006年からハノイに住むようになりました。勤めた工場は従業員数が800人、平均年齢は25歳です。他の工場も平均年齢は大体同じく20歳代です。

ベトナムでは20歳代～40歳代が最も多く、若い労働力を確保できることが外国企業にとり一つの魅力となっています。

ベトナム人は儒教の影響を受け、日本人の波長とよく合うとも言われています。東南アジアのなかでベトナムだけは漢字文化の影響を深く受けています。宗教では大乘仏教が最も盛んです。隣国のカンボジア、ラオス、タイなどではインド文化圏の影響が多く見られます。

ベトナムでは漢字を使った時代もあり、ベトナムの言葉は漢字からくる言葉もたくさんあります。例えば、「大学」のことをベトナム語で「ダイホック」ですが、漢字で書けば「大学」となります。日本語の「注意」はベトナム語で「チュー・イー」と発音し、漢字で書けば「注意」になります。

ただし、日本人にとって、ベトナム語の発声は6声もあり難しいです。それに加え、ベトナム語の言葉はほとんど単音で、イントネーション（発音の抑揚）が正しくないと意味が通じなくなります。

日系企業が積極的にベトナムに進出しています。現地では日系企業に対し評価が高く、もともとベトナム人の対日感情が大変よいです。

数多くのベトナム人はアジア各国や欧州に出稼ぎに行っていますが、日本も数多くのベトナム人研修生を受け入れています。

ベトナムの若者は日本語や日本文化に対し関心が非常に高く、現地で行われた「日本祭り」や「桜祭り」ではいつも若者で込み合っていて人気を得ています。

ハノイやホーチミン市では日本レストランもたくさんあって、どこの店に行っても半分の客はベトナム人です。私の住まいの近くにはたこ焼き、お好み焼き、牛丼を専門とする日本食堂があります。

逆にハノイ市内などのベトナムの伝統的なレストランに行くと、よく日本人を見かけています。ベトナムの料理は野菜が多く日本人の舌に合うよ



バンミー(文廟)内に祀る学問の神様

うです。特にベトナムのフォー（ベトナム風うどん）を大変好んでいます。

ベトナムで日本語を勉強したい人は、大学の日本語学科、もしくは日本語センターで学ぶことができます。

ハノイではハノイ大学日本語学科やハノイ国家大学外国語大学東洋言語文化学部で日本語及び日本文化を学ぶことができます。ハノイ貿易大学にも日本語学科があります。いずれも国立大学で入学試験をパスしなければ入れません。競争率が極めて高いです。私立大学では、タンロン大学に日本語学科があります。

日本語センターはたくさんあり、入試はありません。ハノイ以外にはホーチミン市、ダナンなどにも日本語を教える大学や日本語センターがあります。

興味深いのは、ハノイやホーチミン市ではお坊さんが無料の日本語教室を開設しているお寺があります。その一つを見学しました。最初はお寺のなかで教室が開かれましたが、学生数がどんどん増え、近くの小学校の教室を借りて夜間に一般市民に教えています。学生は20歳代が大半、50歳代の婦人も見かけました。先生はタンロン大学日本語学科在学中の2年生です。

日本語の勉強の目的はさまざまと推測しますが、日本に行ってみたいと思う若者が少なくはありません。

ハノイから50キロ離れたハナム省では本年から職業訓練学校や看護学校で日本語授業を導入しました。日系企業より日本人を講師としてベトナム人の学生に対し日本企業文化や日本習慣等について講義されます。



ベトナムの日本語教室。お坊さんに開かれたボランティアの日本語教室(夜間)

### ●略歴

- ベトナム、ホーチミン市出身
- 1951年生まれ
- 1970年日本留学
- 1981年筑波大学大学院課程修了
- 1990年日本に帰化
- ハノイ市内在住

■日本人と外国人の交流により、地域社会を活性化

## 日本語を話す会 (新宿区)

NPO法人アジア交流支援協会副理事長／勝俣 淳

当法人の設立は、平成24年11月28日とまだ日が浅く、縁あって今年6月14日より「日本語を話す会」を主催・活動する事となりました。活動するに当たり、一人でも多くの外国人に参加して戴くには何が必要かを模索したところ、ネットで東京日本語ボランティア・ネットワーク様のサイトを拝見させて頂きました。この団体に参加できれば間違いなくネットワークは広がると確信、迷わず参加の申し入れをしました。

当法人の成り立ちは、理事長の友人に外国人が多数おり、個々に日本で生活する上での言葉の壁やビザの問



題などの相談を受けた事がきっかけで、外国人の役に立ちたいという強い気持ちがあり、私を始め多数の友人に声を掛け賛同した結果、当法人の設立に辿り付きました。

法人の目的は、社会の国際化に伴って増加する在日外国人、或いは来日を希望する人達に対して、日本に対する関心と信頼を深め、生活習慣や物

に対する価値観の違いを超えて安心して生活できる環境を提供するためです。また、相談窓口の設置や情報提供、生活支援に関する事業を行い、相互の交流を通して犯罪や不安のない社会作りにも寄与することです。

当初は、ビザを中心に支援活動を行いましたが、現在は交流事業を中心にしております。

最後になりますが、当法人のビジョンは日本人と外国人の交流により、お互いの文化や生活などの理解を深め、対等な住民として地域社会を活性化させ、一人でも多くの外国人が日本で安心・安全な生活を送って貰える事を願っております。

※「日本語を話す会」

会場／東京都新宿区歌舞伎町2-44-1

ハイジア11階 しんじゅく多文化共生プラザ 内

開催日／第二・四土曜日17時から18時半

(参加ご希望の際は事前にご連絡願います)

### 会員団体紹介

# Nice to Meet You

東京都港区プラチナ通り。とあるビルのでできごと。

教室開講日の夕方7時になると教室の入口は、米国、英国、スペイン、中国、韓国、インドネシア、フランス、台湾などのビジネスマンで大混雑。毎回30名はらくに超える。でも、当番の者がテキパキと小グループに分けて着席させる。毎度おなじみの開始風景だ。2~3人の小グループに分かれ、希望する内容の勉強を始める。仮名が何とか読めるグループあり、介護士候補者で難解な専門用語・漢字に挑戦しているグループあり、医科研の研究者、大使館の職員、ゲーム開発エンジニア、銀行の外為担当者、留学中の客員教授など、学習目的・日本語レベルは多岐に渡っている。このさまざまな学習者の要望に応えるため、17人ほどの日

### nice to meet you

■急成長する、ビジネスマンのための夜間講座

## プラチナにほんご教室 (港区)

代表／木村 宣

本語ボランティアも必死である。「みんなの日本語」「GENKI」などのテキストを使うだけではない。独自に教材を作成したり、最近のニュースを議論用にまとめ、用語解説を準備するなど、大変な努力がなされている。その為、8時半の終了ベルが鳴っても、すぐに終わらないグループも多い。

また、上級者から希望が多かった特別クラスが、やっと始まった。AVを駆使し、TV番組、映画、業界誌紙などの教材を使い、ビジネスマンが高度な日本語を駆使できるように考え、工夫されたものだ。N1レベル以上の学習者で白熱した議論が展開される。会議、プレゼン、スピーチなどで困らないようになることが目標となっている。

余暇には、料理教室などで各国の味



覚を交換しあい多文化共生を肌で感じている。江戸東京博物館、歌舞伎座、国技館などで日本文化にひたり、花火大会を見物し、桜を求めて目黒川のほとりを散歩したり…。

わずか発足2年足らずの若い教室であるが、港区社会福祉協議会から公認をいただき、今後も「楽しく、質の高い」学習をモットーに、地域に密着した多文化共生を軸に活動内容・分野の拡大発展が期待されている。

学習者の声

ことばを学ぶことの  
大切さと楽しさ

今野クリステイ / フィリピン  
南多摩日本語の会 (多摩市・日野市)

後は漢字も少しずつおぼえました。現在は読書をしたり日記を書いたりもしています。

南多摩日本語の会に入って5年も経ちましたが、なぜ長く続けることができたのか。それは、ていねいに教えてくれる先生たちが大好きなこと、一緒に勉強している仲間たちとの楽しい雰囲気があるからです。他にも理由があります。新年会や工場見学、バーベキューといったイベントも楽しみで、先日はお茶会に参加して日本の文化も学べました。教科書からだけではなく、このような体験や、私が好きな日本のテレビドラマからも色々なことを学べます。今では、最初の目標だった学校からのお知らせも読めるようになり、スーパーで仕事もしています。

私は日本にずっと住むつもりなので、もう安心です。平和な日本が大好きです。



左端、今野クリステイさん

私は今、日本が大好きです。ですが、初めて来た時は不安でした。一番困ったのは、言葉が分からなかったことです。言葉が分からないと何もできません。少し話せるようになったのは、子供が幼稚園に通い出した時でした。バスを待っている時に、日本人のお母さんが日本語を教えてくださいました。子供が小学校に通い出したら送り迎えはなくなったので、お母さんたちと話すきかひも少なくなりました。学校からのお知らせや手紙が増え、何が書いてあるのか分からない私は、いつも主人に読んでもらっていました。でも主人は忙しいので、いつも私の希望通りというわけにはいきませんでした。「このままの生活を続けていたら大変だな…」と思いき、なんとか自分でも少しは読めるようになりたいと思うようになりました。

そのような時に、南多摩日本語の会で勉強しているフィリピンの友達から、一緒に勉強をしないかとさそわれました。そして、私はこの会に入ることを決めました。

最初はひらがなとカタカナを勉強し、その

ボランティアの声

代表補佐 大宮司弘昌  
南多摩日本語の会 (多摩市・日野市)

マンツーマン学習を  
支えている勉強会

「南多摩日本語の会」は、多摩市・日野市およびこの周辺地域で日本語学習を支援しているボランティア団体で、2001年に発足しました。現在会員数は外国人30名、日本人70名ほど、教室は月水木金土に開催しています。

外国人の日本語のレベル・目標はさまざまですが、当会では可能な限りそれに合わせて、原則マンツーマンの学習を行っています。

当会は発足以来、財政・運営について行政の支援を受けず、すべて自力で活動しており、当会の特徴であり誇りでもあります。従って各ボランティアは日本語学習

支援の他に会を支える各種庶務的なことを負担しています。私は「勉強会の開催」と「ホームページ

の制作・維持管理」を担当しています。

勉強会は2004年2月の第1回以来2か月ごとに年6回一度も欠かすことなく開催され通算65回となりました。当会のボランティアは全員日本語教育についての基礎講習修了者ですが、これで十分とはいえません。更なる向上努力が必要で、勉強会はその動機付けとなっています。講師は会員が交代で務めており、テーマは日本語についての概論的なものから助詞の使い方といった具体的な個別の問題まで様々ですが、最近はだれもが関心のある身近なテーマを取り上げるよう皆で心がけています。自由参加なので出席率が悪い場合もあります。一度アンケートをとりましたところ、「勉強会は非常に役に立っている、時間の都合がつく限り出席したい。しかし強制されるのは困る。」との回答が大部分でした。これらの結果を踏まえ、「無理せず続ける」を合言葉としています。



左端、大宮司氏



### ●大田区で外国人のための情報誌 “Ota City Navigation”に「わかる日本語」版が発行

大田区からのお知らせや地域のイベントなど、旬な情報を、英語・タガログ語・中国語・日本語(ふりがな付)・ハングル語の5言語版で、毎月15日に発行されています。

この中で日本語(ふりがな付)は今年(平成26年)4月号から「わかる日本語」となりました。

この「わかる日本語」版を担当している方々は、大田区ボランティア養成講座の「わかる日本語」(平成25年10月～12月)を

受講され、その後実践に向けて努力されています。

この講座はTNVNの「わかる日本語」研究会のメンバーが講師となり、研究会での結果を踏まえて日本語文を“日本語を母語としない人にわかりやすい日本語”にリライトする目安と基礎知識・手法を学んで貰いました。

駅等に設けてある広報誌のスタンドでは「わかる日本語」版が先になくなるそうです。

[http://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/kouryu/warbler/ota\\_city\\_navigation/](http://www.city.ota.tokyo.jp/kokusaitoshi/kouryu/warbler/ota_city_navigation/)



### ●“国際化市民フォーラム in TOKYO”が 2015年2月21日に開催されます。

東京都でオリンピック・パラリンピックが2020年に開催されることが決まり、これに向けた取り組みが幅広く行われています。

東京都国際交流委員会・国際交流・協力TOKYO連絡会もフォーラムで関連したテーマを取り上げ、多方面の方を基調講演者、パネリストにお呼びし、各分科会のテーマに沿った報告とトークを予定しています。

■日時／平成27年2月21日(土)

10:00～12:30 13:30～16:00

■場所／JICA地球ひろば

(新宿区市谷本村町10-5)

■表題／外国人と日本人がともに紡ぐ

多文化共生のまちづくり

第1分科会／おもてなしの心が世界をつなぐ

第2分科会／語学ボランティアの現状と

問題点

第3分科会／外国人が感動する

「日本のおもてなし」とは

第4分科会／語学ボランティアの役割

詳細は東京都国際交流委員会から12月下旬ごろにチラシとHPで公示されますのでご覧ください。

<http://www.tokyo-icc.jp/>



### column 高校進学希望

母国(ネパール)で小学校を卒業後、親の意向で日本に呼び寄せられたDさんをボランティア仲間と支援しています。彼女は、区立中学校1年生に入り、現在3年生。先日、運動会の応援に行きました。リレーやダンスに赤組の一員として頑張っており、声をからして一所懸命に応援している姿を見て、「この中学校に入れてもらって本当に良かった」と母親のような心境になりました。

多文化子ども自立支援センターの中山真理子先生にアドバイスを頂きながらの日本語学習支援は2年になります。学習態度は真面目で、級友との会話も弾むようです。日本語はN3レベルになりました。

彼女もご両親も高校進学を希望していますが、母国の学習内容とに大きな違いがあることや、語彙が乏しいことなどから、厳しい状況です。国語をはじめ理科や社会の授業を理解するのは、まだまだです。けれども、日本語はどんどん伸びていますし、英語準2級に合格しました。志望校に合格できるよう願いながら支援を続けています。

中山先生は長年の国際貢献から、この夏「外務大臣表彰」を受けられました。今後とも子どもの支援に関してアドバイスをくださるよう、よろしくお願い申し上げます。

(岡田)

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時  
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)一出口 B2b) 飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸 1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆新会員紹介

正会員：江戸川日本語クラブやまびこ  
(江戸川区)

個人協力会員：宮崎 妙子

◆会員数(2014年10月31日現在)

正会員：85団体

個人協力会員：16名

団体協力会員：1団体

賛助会員：4団体

◆編集／大木冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

◆レイアウト／鶴田 環恵